



市民音楽祭 (11月4日)

「愛をいそげ」を出演者と客席とで大合唱

主な内容

- 小池市長の市政報告
75歳以上の方への肺炎球菌ワクチン
接種費用を助成 …………… ② 12
- 八代亜紀コンサートチケット好評発売 …… ⑬
- 秋の叙勲・第9回 加茂菊花展開催 …… ⑭
- 第45回 市展 受賞作品紹介 …………… ⑯ 22
- 加茂の風土記「鬼倉遺跡出土の墨書土器」 ⑳

加茂病院は加茂市の宝 加茂病院を盛り立てましょう

「美人の湯」も加茂市の宝 美人の湯をよろしく願いたします

市政報告

加茂市長 小池清彦

高齢者の方々に肺炎球菌ワクチンの接種をお奨めします。

接種後五年以上たった後の再接種や繰り返しも課のであるのとこのことです。

なお、七十五歳以上の方々には、肺炎球菌ワクチン接種費用の助成（三千円）を行います。

一 高齢になってこられますと注意しなければ

ならないのは、インフルエンザと肺炎です。

インフルエンザにつきましては、加茂市では、六十五歳以上の方に無料で接種しています。

一方、肺炎につきましては、肺炎球菌のワクチンを接種するのが有効とされております。ところが、肺炎球菌ワクチンは、有効期間が五年位で、日本では、これまで、有効期間を過ぎてから再接種すると、注射部位の疼痛、紅斑、硬結等の副作用が出るものがあつて、再接種はよくないとされてきました。しかし、外国では、何回でも再接種しているということでありま

したので、私も、こここのところをはつきりさせなければならぬと考えていたのでございました。

二 こうしたときに、大変ありがたいことに、悩んでいる私を見て、加茂病院の高橋芳右院長先生が、「こういう検討結果があります。」とおっしゃって、平成二十一年八月三十一日付の「社団法人日本感染症学会」の「肺炎球菌ワクチン再接種問題検討委員会」が出した「肺炎球菌ワクチン再接種に関するガイドライン」を私にくださいました。

三 このガイドラインは、「米国では、一九九七年以降、肺炎球菌ワクチンの初回接種から少なくとも五年が経過していれば、再接種が条件付で認められている。現在では、承認販売されて

いる三十八カ国中、日本を除く全ての国で本ワクチンの再接種が行われている。また、英国、フランス、ドイツ等では、ハイリスク者に対し五〜六年ごとに繰り返し接種することも認められているなど、わが国を除く世界各国では再接種が既に公知のものとなっている。」とし、また、

「これまでわが国では、本ワクチンの再接種に關しては安全性が確認されていなかつたことから不適当とされてきたが、上述のとおり、海外においては再接種が安全裡に実施されていること、また、国内外において再接種の安全性に關する知見が集積されてきたことから、高齢者やハイリスク者における再接種の必要性の増加も勘案して、本学会は、わが国でも本ワクチンの再接種を推奨するものである。」としております。

四 これでは、通常は、肺炎球菌ワクチンを前回接種から五年以上たったところで、再接種や繰り返し接種を行ってもよいことがわかりましたので、高齢者の皆様には、肺炎球菌ワクチンの接種をお奨めするものであります。

ただし、すべて予防接種については、例外的に重大な副作用があることがありますので、接種される場合は、お医者様によく相談される必要があります。

五 こうしたときに、「新潟県後期高齢者医療広域連合」が、市からの要望があれば、国からの特別調整交付金を利用して、七十五歳以上の後期高齢者に対し、肺炎球菌ワクチンを接種した場合に三千円を助成することといたしました。

加茂市は、早速要望し、了承されました。

六 従って、加茂市の七十五歳以上の後期高齢者の方々はいつでも病院やお医者様で通常八千円の肺炎球菌ワクチン接種を三千円差し引いた五千円で受けられます。この場合、保険証を必ず御持参ください。

また今年四月一日以降にすでに接種された方は、次の書類を添えて、加茂市役所健康課から三千円をお受け取りになります。

なお、これらの書類を無くされた方は、健康課に御相談ください。

○医療機関で発行した領収書及び接種日が証明できるもの

○保険証

○金融機関名と口座番号（本人以外の口座の場合、印鑑が必要）

七 前述のように、私は、高齢者の方々に肺炎球菌ワクチン接種をお奨めするものでありますが、現在のところ、助成があるのは、七十五歳以上の方々に対して、新潟県後期高齢者医療広域連合から三千円の助成があるのみであります。従つて、七十五歳未満の方がこの接種を受けになる場合は、通常八千円が必要です。

八 加茂市といたしましては、今後機を見て、六十五歳以上の方々に対し、加茂市からの助成金を差し上げることが目指したいと思ひますが、今のところ国からの地方交付税交付金が減らされ、市の財政状況が厳しいため、市の助成金を差し上げることができず、本当に申し訳なく思っております。

九 こうした中におきましても、高齢者の方々に

おかれましては、肺炎球菌ワクチンの接種を受けになり、健康でお幸せな日々をお送りくださいますようお祈りするものであります。

十 なお、肺炎球菌ワクチンの再接種や繰り返しの接種を、通常は、行つてもよいとされたことは、極めて重要なことでもありますので、これまでに引用いたしました日本感染症学会の検討委員会が作成したガイドラインの全文を次に揚げます。

社団法人 日本感染症学会
肺炎球菌ワクチン再接種問題検討委員会

肺炎球菌ワクチン再接種に関するガイドライン

ガイドライン作成の経緯

肺炎球菌感染症は頻度が高く、しかも重症化しやすく、65 歳以上の高齢者においては肺炎球菌が肺炎の原因菌の第一位を占めている。さらに近年では、ペニシリンをはじめとする多くの薬剤に耐性を示す多剤耐性肺炎球菌が急増しており、治療困難例も増加している。高齢化社会の到来した今日、その治療だけでなく予防は極めて重要と考えられる。23 価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン(ニューモバックス®NP、以下、本ワクチンと略す) による予防効果は薬剤感受性に影響されないため多剤耐性肺炎球菌に対しても有効であることが大きな利点である。

本ワクチンの予防効果は5年以上持続するとされているが、接種により上昇した特異抗体濃度は時間の経過とともに低下し、高齢者や呼吸器、循環器に基礎疾患を有する人では低下しやすい傾向にあることも報告されている。特異抗体濃度の低下は肺炎球菌感染症の重症化リスクの増加につながるおそれがあるため、抗体水準を維持するために再接種が必要となる。

米国における1970年代の研究では、14 価の肺炎球菌ワクチンを2年以内に再接種された成人の注射部位に初回接種時と比べて強い局所反応(Arthus様反応)が発現したことから、1983年承認当初には米国でも再接種が禁忌とされていた。しかし、その後の試験において、4年以上の間隔を空けて再接種すれば、初回接種時に比べて副反応の発現率は増加しないことが確認されている。これらの結果を踏まえ、米国では1997年以降肺炎球菌ワクチンの初回接種から少なくとも5年が経過していれば再接種が条件付で認められている¹⁾。現在では、承認販売されている38カ国中、日本を除く全ての国で本ワクチンの再接種が行なわれている。また、英国、フランス、ドイツ等ではハイリスク者に対し5~6年ごとに繰り返し接種することも認められているなど、わが国を除く世界各国では再接種が既に公知のものとなっている。

一方、わが国では肺炎球菌ワクチンの接種が2002年以降に急増したが、既接種者の接種後の期間が5年を経過し始めており、高齢者やハイリスク者における再接種の必要性が高まりつつある。これまでわが国では、本ワクチンの再接種に関しては安全性が確認されていなかったことから不相当とされてきたが、上述の通り海外において

は再接種が安全裡に実施されていること、また、国内外において再接種の安全性に関する知見が集積されてきたことから、高齢者やハイリスク者における再接種の必要性の増加も勘案して、本学会は、わが国でも本ワクチンの再接種を推奨するものである。

以下に再接種を行う際の注意事項、並びに再接種時に観察される副反応についての海外成績を紹介する。

医療関係者が本ガイドラインを効果的に利用することにより、本ワクチンの接種並びに再接種が安全に行われることを期待するものである。

接種対象者

初回接種から 5 年以上経過した次に示すような肺炎球菌による重篤疾患に罹患する危険性が極めて高い者及び肺炎球菌特異抗体濃度が急激に低下する可能性のある者を対象*とする。

1)65 歳以上の高齢者

2)機能的または解剖学的無脾症（例 鎌状赤血球症、脾摘出）の患者

3)HIV 感染、白血病、悪性リンパ腫、ホジキン病、多発性骨髄腫、全身性悪性腫瘍、慢性腎不全、またはネフローゼ症候群の患者、免疫抑制化学療法（副腎皮質ステロイドの長期全身投与を含む）を受けている患者、臓器移植または骨髄移植を受けたことのある者

ただし再接種時の年齢が10歳以下である鎌状赤血球症、脾臓摘出のような機能的無脾症又は解剖学的無脾症である小児、又はネフローゼ症候群、腎不全、腎移植のような初回接種後に抗体が急速に減少する小児については、前回の接種から3年後に再接種を考慮することが推奨される。なお、初回接種は2歳以上を対象としている。

*：接種対象者は、米国CDC（Centers for Disease Control）の予防接種勧奨委員会（Advisory Committee on Immunization Practice; ACIP）が発表した罹患率・死亡率週間報告書¹⁾（MMWR、46：1-25、Apr 4、1997、以下 ACIPガイドライン）を参考に設定した。

接種方法

1回 0.5mL を筋肉内又は皮下に注射する。

<用法及び用量に関連する接種上の注意>

他のワクチン製剤との接種間隔

生ワクチンの接種を受けた者は、通常、27 日以上、また他の不活化ワクチンの接種を受けた者は、通常、6 日以上間隔を置いて本剤を接種すること。ただし、医師が必要と認めた場合には、同時に接種することができる（なお、本剤を他のワクチンと混合して接種してはならない）。

なお、ACIP ガイドラインでは、本剤とインフルエンザワクチンは、副反応が増大したり両ワクチンの抗体応答が低下したりすることなく、同時に接種することができる（各ワクチンを各腕に別々に注射する）と記載されている。

再接種時の注意事項

再接種時と初回接種時との副反応の種類は変わらないが、一般的な対処方法を以下に記す。

1. 再接種の副反応発生時の処置

過去に、肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチンを接種されたことのある者では、本ワクチンの再接種により初回接種に比べて強い局所の副反応（注射部位の疼痛、紅斑、硬結等）が起こることがある。一般的に、予防接種後の局所の副反応は3～4日で消失するが、熱感、発赤の強いときには局所の冷湿布を行う。なお、接種部位を中心に上腕全体、あるいは前腕にまで及ぶ局所の副反応が接種から2～3日後をピークにみられることがあるが、局所の保存的な処置（冷湿布、ステロイドホルモン剤や抗ヒスタミン剤の塗布等）で消退する。

また、予防接種後に起こりうる重篤な副反応として、アナフィラキシーショック（アナフィラキシー様症状を含む）があるが、そのような重篤な全身性の副反応が発生した際には、次のような緊急処置^{2, 3)}を行う。

(1) 投与時の観察

1) 投与方法：

- ① 投与開始後は注意深く観察する。
- ② 下記の症状が現れたら、速やかに投与中止し、適切な処置を行う。

即時型アレルギー反応を疑わせる症状

- ① 注射局所の反応：注射部位から中枢にかけての皮膚発赤、膨疹、疼痛、掻痒感
- ② 全身反応：しびれ感、熱感、頭痛、眩暈、耳鳴り、不安、頻脈、血圧低下、不快感、口内・咽喉部異常感、口渇、咳嗽、喘鳴、腹部蠕動、発汗、悪寒、発疹

(2) ショック等の発生時に必要な薬剤例（成人および小児）

- 1) アナフィラキシー初期治療薬：エピネフリン（ボスミン®）
- 2) 副腎皮質ステロイド薬：ヒドロコルチゾン（ソル・コーテフ®など）
- 3) 抗ヒスタミン薬：マレイン酸クロルフェニラミン（ポララミン注®）
- 4) 気管支拡張薬：アミノフィリン（ネオフィリン®）
- 5) 昇圧剤：ドパミン（イノバン®など）
- 6) 輸液製剤（生理食塩水あるいは乳酸リンゲル液）

(3) ショックの症状と程度

1) ショックおよびアナフィラキシー様症状が発現した場合には、症状に応じて対処する。

軽 症： 血圧低下を認めない、意識清明、症状は軽度

目安となる徴候： 注射部から中枢に向けての熱感、疼痛、悪心、嘔吐、くしゃみ、掻痒感、蕁麻疹

中等症： 血圧低下を認めるが意識障害はみられない、あるいは軽度の気道閉塞症状がみられる。

目安となる徴候： 血圧低下： 収縮期血圧 70-80mmHg、顔面蒼白、発汗、冷汗、強い嘔吐

気道閉塞： 呼吸困難、顔面浮腫、声門浮腫、気管支痙攣、咳嗽、喘鳴

重 症： 意識低下・喪失と高度の気道閉塞を伴う病態

目安となる徴候： 脈拍微弱、血圧測定不能、不整脈（期外収縮、発作性頻拍）、痙攣、高度の喘鳴、泡沫状の喀出痰
さらに進行すれば、四肢蒼白、チアノーゼ出現、心肺停止状態となる。

表 1 にアナフィラキシーショックの症状と程度の関係を示す。

表 1 アナフィラキシーショックの症状と程度

	血圧低下	意識障害	気道閉塞症状	症状の程度
軽 症	(-)	(-)	(-)	軽 度
中等症	(+)	(-)	(±)	中等度
重 症	(+)	(+)	(+)	重 度

2) 呼吸管理が十分に行えない医療施設において、中等症～重症のショックおよびアナフィラキシー様症状が発現した場合には、出来る限りの対応をしながら、対応可能な施設に速やかに移送する。

(4) 救急処置の具体例

自覚および他覚症状の異常がみられたら、速やかに以下の対応を行う。

1 バイタルサインのチェック、症状と程度をチェックする。2) **軽症の場合**

① 輸液投与： 静脈ルートを確保して、必要な薬剤の使用に備える。

② 酸素投与： 必要に応じて行う。

③ 対症療法： 必要に応じて行う。

- a. マレイン酸クロルフェニラミン（ポララミン注[®]）
 - b. コハク酸ヒドロコルチゾン（ソル・コーテフ[®]など）
- ④エピネフリン 0.1%液（ボスミン[®]） 0.2～0.5 mg を皮下注：症状の改善がみられない場合に投与

3) 中等症～重症の場合

①エピネフリンの投与：

（成人） エピネフリン 0.1%液（ボスミン[®]） 0.2～1.0 mg を皮下注あるいは筋注

あるいは、エピネフリン 0.1%液（ボスミン[®]） 0.25 mg の 10 倍希釈をゆっくり静注。

効果不十分な場合、5～15 分おきに追加投与する。

（小児） エピネフリン 0.1%液（ボスミン[®]） 0.01mg/kg（最大 0.3 mg）を皮下注射する。

あるいは、エピネフリン 0.1%液（ボスミン[®]） 0.01mg/kgの 10 倍希釈をゆっくり静注。

効果不十分な場合、5～15 分おきに追加投与する。

②輸液投与： 乳酸加リンゲル液など 20mL/kg/時間程度で開始。

* 心不全、腎不全患者や高齢者の場合には適宜減量する。

③酸素投与および気道確保：

a. 高濃度（60%以上）の酸素投与。

b. 効果不十分な場合、気管内挿管を行い、100%酸素での人工呼吸に切り替える。喉頭浮腫が強く気管内挿管が不可能な場合は輪状甲状切開を行う。

④ 循環管理： 必要に応じて下記の処置を行う。

a. 昇圧剤投与： 血圧低下が遷延する際は、ドパミン 5～20 μ g/kg/分を併用する。

⑤ ステロイド投与

（成人） コハク酸ヒドロコルチゾン（ソル・コーテフ[®]など） 500mg～1000 mg 点滴静注

（小児） コハク酸ヒドロコルチゾン（ソル・コーテフ[®]など） 100～200mg 点滴静注

* 4～6 時間毎に静注

⑥ 抗ヒスタミン薬

（成人） マレイン酸クロルフェニラミン（ポララミン注[®]） 5 mg 静注

（小児） マレイン酸クロルフェニラミン（ポララミン注[®]） 2.5～5mg 静注

2. 再接種時の副反応およびその頻度（海外成績）

1999年にJacksonら⁴⁾によって再接種の安全性について初回接種と比較した試験結果が報告されている。Jacksonらは50歳から74歳までの、過去に肺炎球菌ワクチン接種歴のない901名及び、少なくとも5年前に肺炎球菌ワクチン接種歴のある513名を対象とし、再接種前の血清中特異IgG濃度と再接種時の副反応について検討した。試験の結果、初回接種群及び再接種群のいずれの群においてもワクチン接種に関連した重篤な有害事象は認められなかった。また、接種2日以内の接種部位の大きな局所反応(10.2 cm以上)の頻度は、初回接種群(3%)より再接種群(11%)において有意に高かったものの、いずれも接種3日以内に消失しており、再接種に伴う局所反応の増加のリスクは、再接種を禁忌とする理由には当たらないと結論付けている。

また、米国における本ワクチン(米国での販売名:ニューモバックス[®]23)の添付文書⁵⁾に記載されている再接種に係る臨床試験成績の概要は以下の通りである。

臨床試験の結果によると、安全性解析対象の986例(初回接種50~64歳:217例、初回接種65歳以上:221例、再接種50~64歳:152例、再接種65歳以上:396例)のうち、初回接種より3~5年後に行われた再接種群において、軽い痛みと軽度の腫脹を含めた局所の副反応の発現率の増加が観察されている。表2の通り、65歳以上の被験者では、再接種時の注射部位における局所反応の頻度は、初回接種時と比べて高かったが、50~64歳の被験者では、再接種時と初回接種時の発現率はほぼ同様であった。なお、注射部位における局所反応は接種後3日以内に認められ、おおむね5日以内に消失した。

表2 注射部位における有害事象の発現率

	初回接種時	再接種時
65歳以上	52.9%	79.3%
50~64歳	72.8%	79.6%

複合エンドポイント(中程度以上の痛み、注射部位における広範な腫脹のいずれか)については、いずれの年齢群においても、再接種時の発現率は初回接種時の発現率よりも高かった(表3)。

表3 複合エンドポイント(中程度以上の痛み、注射部位における広範な腫脹のいずれか)

	初回接種時	再接種時
65歳以上	10.4%	30.6%
50~64歳	18.9%	35.5%

一方、全身性の有害事象の発現率は、いずれの年齢群においても初回接種時と再接種時ではほぼ同様であった（表4）。

表4 ワクチンに関連した全身性の有害事象の発現率

	初回接種時	再接種時
65歳以上	21.7%	33.1%
50～64歳	35.5%	37.5%

ニューモバックス[®]23の接種時に最も頻繁に認められる全身性の有害事象としては、倦怠感/易疲労、筋肉痛、頭痛がある。年齢に関係なく、ワクチン接種後に鎮痛薬の使用が増加していたが（再接種時が13%以下、初回接種時が4%以下）、接種後5日目までには接種前の状態に戻っていた。

- 1) CDC. Prevention of Pneumococcal Disease. MMWR. 46 : RR-8. Apr 4.1997
- 2) 抗菌薬投与に関連するアナフィラキシー対策について（2004年版概要）. 平成16年9月 社団法人日本化学療法学会臨床試験委員会皮内反応検討特別部会作成
- 3) 抗菌薬投与に関連するアナフィラキシー対策のガイドライン（2004年版）. 社団法人日本化学療法学会臨床試験委員会皮内反応検討特別部会
- 4) Jackson LA et al. Safety of revaccination with pneumococcal polysaccharide vaccine. JAMA.281(3):243-8.1999
- 5) PNEUMOVAX[®] 23（PNEUMOCOCCAL VACCINE POLYVALENT）米国添付文書（2009年7月発行）

平成21年8月31日

社団法人日本感染症学会肺炎球菌ワクチン再接種問題検討委員会

（大石和徳、川上和義、永井英明、砂川慶介、渡辺 彰 [座長]）

加茂文化会館 催しのお知らせ

八代亜紀コンサート



平成25年 **3月10日(日)** 昼の部：午後2時開演
夜の部：午後6時開演

全席指定 前売券S席5,000円 A席4,000円 (当日は各500円増)
※未就学児の入場はご遠慮ください

プレイガイド ミュージックショップ・アベ(駅前) ☎52-1999
小池めがね(本町) ☎52-2321 市民サービスセンター(上町) ☎53-1180

主催・会場 加茂文化会館 ☎53-0842

秋の叙勲

公共のため尽されたとして、秋の叙勲において加茂市から三名の方が受章されました。受章された皆さんからその足跡や喜びの声をうかがいました。

旭日双光章

(地方自治功労)



大関勝正さん
(小橋1・71歳)

大関さんは、平成三年から二十三年まで五期二十年にわたり市議会議員を務め、その間、常任委員長、特別委員会委員長などの要職を歴任されました。会社員だった五十歳のとき、周囲に強く推され市議会議員選挙に立候補しました。「かなり悩んだ」ことが人生の節目になったそうです。

議員になったときは、加茂川水害から改修と区画整備など社会資本整備にある程度目処が付き、地元経済の振興や施設の運用など、

ソフトの充実とその問題解決に苦勞した議員活動だったと振り返ります。平成十三年の十二月定例会では、「大型経営破たんの影響と対策」について、市議会で二十二年ぶり七例目となる緊急質問を行い、加茂市の経済に大きく影響しかねない企業の再建と支援に向けた活動に奔走しました。

一市民の今も国の借金である国債とエネルギー政策など、未来がどのようなようになっていくかを注目しつづけたと言います。

現在は、好きな囲碁で交流が広がるのと、地域活動のお手伝いがメインの生活。「この受章は、支援してくださった方々と、家族のおかげです」と話していただきました。

瑞宝双光章

(教育功労)



井上信二さん
(神明町2・73歳)

井上さんは、三十八年間の学校現場と教育行政に携わり、その後、二期八年間、昨年九月まで加茂市教育委員会委員・教育長を務められました。受章の知らせを受け、数えられないくらいの人たちに支えられ、恵まれたことに感謝し、お礼を伝えたいと話します。

昭和三十七年の初任地は、中魚沼郡津南町で、その年の冬は「三八豪雪」。しかし、雪は長岡付近からの里雪型で、津南・十日町地域では学校のスキー大会開催が危ぶまれるほどの「少雪」だったそうです。昭和四十一年に加茂小学校へ転勤。その当時の加茂小は全校児童が千四百人を超える県内有数の大規模校だったとのこと。加茂に居をかまえ、風土・地域は人を育て、引き継いでいくとい

うことを感じました。加茂の子どもは短い時間でも集中して取り組むから、秋の音楽発表会ですばらしいまとまりをみる事ができます。子供たちは、大人や社会、世情を鋭く観察しているといい、今、ささいなことでも子供たちにストレスがたまっていけないか心配になるそうです。

今春、奥様を亡くされ、「ころ」と「からだ」の半分がなくなったような感じとありますが、休んでいたサックスフォンの練習する時間をつくるのに忙しいとのこと。

瑞宝単光章

(消防功労)



市川哲男さん
(若宮町1・67歳)

市川さんは、昭和三十八年十月に常設消防設置に伴い、消防士として初めて加茂市に採用されたう

ちの一人です。

当時の状況は、技術も知識も消防団に頼るところが大きかったと思うのですが、今では当たり前と思われる救急対応も、昭和四十二年、救急車の配備により業務が始まったそう、病院や医師への連絡など手探りで現在に至る基礎をつくりました。

昭和四十年代まで、生活様式は「かまど」や「まき風呂」が主流で、とにかく火災が多かったそうです。その後、都市ガスやLPガス、電気などや建築資材の耐火性能の改良により、火災件数が減少してきました。記憶に残る現場として、採用後、間もない頃の昭和三十九年に発生した新潟地震で、新潟市内の液状化現象による飛び出た地下配管や波打った道路を今でも覚えているそうです。

今の趣味は、風景などのカメラ撮影と小さな菜園での野菜作り。この受章には、二十四時間勤務や不規則出勤など家族への負担と、公私わたり支えてくれた消防団の皆さんに感謝を忘れないと話していただきました。

第9回加茂菊花展

8部門百七十二点を展示

菊愛好家の皆さんが丹精込めて育てた作品が十一月六日から二十三日まで冬鳥越スキーガーデン特設会場に展示されました。今年も猛暑に見舞われ、鉢や葉への水の管理が大変だったそうです。総合賞および各部門に入賞された皆さんは次のとおりです。(敬称略)



市長賞の「厚物三幹・新大平の銀峰」(右側)と二等賞の「管物三幹・天女名所」

【総合賞】市長賞「厚物三幹・新大平の銀峰」成澤一男(新潟市) 二等賞「管物三幹・天女名所」大竹与市(新潟市) 三等賞「木付け・輝」清水修(上下条)

【部門賞】

【管物三幹】優秀賞・大竹与市 一位・大竹与市 二位・関根文雄(新潟市) 三位・渡辺 登(後須田第二) 三位・吉田セツ子(五泉市) 【厚物三幹】優秀賞・成澤一男(新潟市) 一位・大竹与市 二位・関川勝(下鶴森)



三等賞「木付け・輝」



三位・安中朝次(上町) 三位・関根文雄、村川平八(五泉市)、青木承輔(燕市) 【懸崖】優秀賞・桜井美千代(新潟市) 一位・牛田勝(田上町) 【七幹立】優秀賞・成澤一男 一位・牛田勝 二位・成澤一男【数咲】優秀賞・成澤一男【中菊】優秀賞・大竹与市 一位・大竹与市 二位・安中朝次 三位・成澤一男、大竹与市【だるま・補助・切花】優秀賞・関川勝 一位・大竹与市 二位・大竹与市 三位・関根文雄、大竹与市、成澤一男【木付け】優秀賞・清水修 一位・清水修 二位・清水修 三位・安中栄五郎(上下条)

第45回 市展

市展賞受賞作品紙上紹介

11月3日から7日まで、市民体育館で開催された加茂市美術展（市展）には、おおぜいの方から観覧していただきました。今年の市展で受賞された作品を紹介します。



洋画 「闘牛図」
桑原 茂さん



日本画 「神池の冬」
田中 佳子さん



工芸

「天に伸びよう」
山田 敬子さん

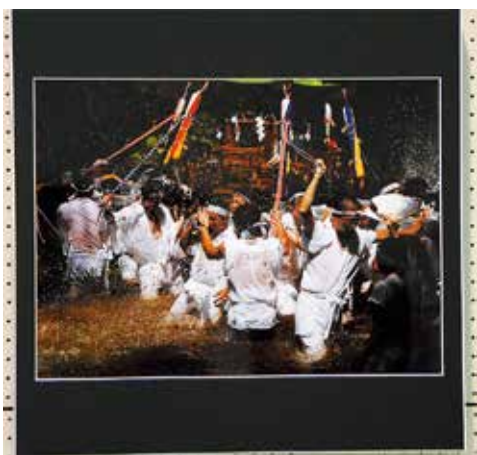
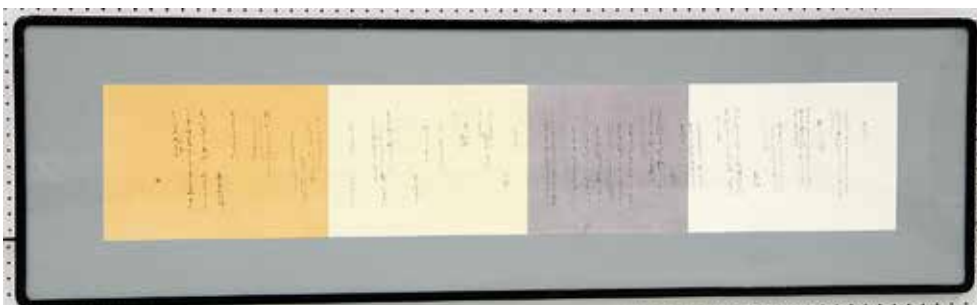


写真 「鎮守様の夏祭り」
小柳 政一さん

書道

「臨元永本古今集」
土田 芳苑さん



書道一部拡大（上）

※今回、彫刻部門に市展賞はありませんでした。

第45回 市展

新潟日報美術振興賞受賞作品



日本画

「冬の青海神社」
安中 美千枝 さん



洋画

「水響」
皆川 孝一 さん



書道

「良寛の歌」
佐藤 芳春 さん



写真

「神事の種まき」
助川 茂 さん



工芸

「XII-III」 石澤 啓一 さん

※今回、彫刻部門に新潟日報美術振興賞はありませんでした。

第45回 市展

奨励賞受賞作品



洋画「粟ヶ岳に霧」
小林 喜美子 さん



日本画「青海神社 翁杉」
中名林 實 さん

工芸「初秋彩」
富樫 久子 さん



洋画「或る日のキッチン」
坪谷 イネ さん



彫刻「なかま」 川口 清次 さん



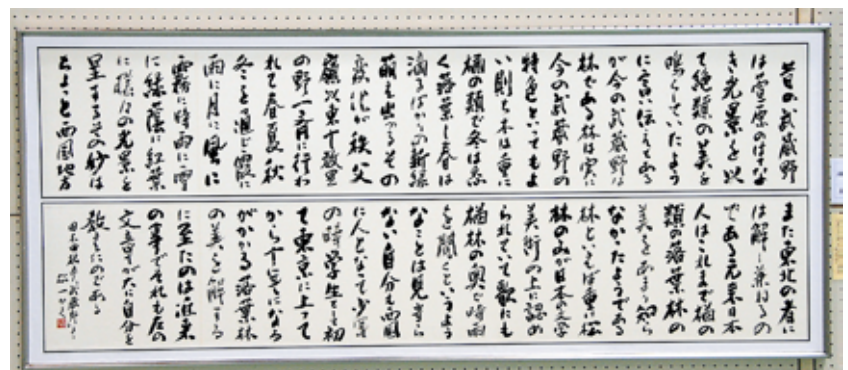
工芸「天空の舞」
斎藤 勝吉 さん



工芸「亀甲象嵌にやぶれ麻ノ葉」
近藤 春男 さん



書道「道元の歌」 笹川 希代子 さん



書道「国木田独歩『武蔵野』より」
川島 松一 さん



書道「七言律詩」 田辺 美保子 さん



書道「五言古詩」 鈴木 恵美 さん



写真「じゅな・だーいすき！」
小柳 典子 さん



写真「小雪とパパ」
樋口 八重子 さん



写真「ママこわいよー」
新井 勝義 さん



写真「爽やかな夏」
乙川 知昭 さん

第45回 市展

振興賞受賞作品



書道「臨争坐位文稿」
小嶋 ゆかり さん



洋画「夢く遊泳く」
渡辺 千晴 さん



工芸「神話」
涌井 凌 さん

第四十五回市展の各部門で市展賞を受賞された皆さんから、受賞された感想や作品についてのコメントをいただきましたのでご紹介します。

日本画

「神池の冬」

田中佳子さん(高須町二)

この度、市展賞を頂戴致しまして、本当に夢のようです。

加茂山は、私にとって子供の頃遊んだ思い出の場ですので、どの景色も懐かしく感じます。

神池や神社の周辺は、季節を通して描いています。大好きな加茂山の絵で賞を頂けて、とても嬉しく思います。

退職してから公民館の水墨画クラブに入れていただき、隔週で公民館で楽しく絵を描いています。春と秋のスケッチ旅行、夏忘れ会、忘年会、それからクラブだけの作品展等があって、和気あいあいと研さんを積んでいます。

子供の頃から好きだった絵が、いつでも出来る歳(暇)になって幸せを感じているこの頃です。

ご指導いただいている水墨画クラブの先生を始め先輩の方々そし

てお世話になっていてるすべての皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

洋画

「闘牛図」

桑原 茂さん(幸町二)

闘牛に魅せられて二十余年、毎年山古志闘牛場に通っています。最初は写真部門で市展に挑戦しておりましたが、なかなか市展賞には手が届かず諦めてしまいました。

五十七才のときリストラに遭い、それを機会に公民館の洋画教室に入会させていただきました。

約十年、泉田さんをはじめ、いろいろな先生方より御指導いただき、市展、県展等いろいろな展覧会に挑戦、入選、入賞できるようになりましたが、「市展賞」にはなかなか手が届かず、口の悪い仲間から、「万年大閑」とか、もっと高い月謝を払わなければ市展

賞はムリ、ムリ、等々。今回ようやく目標を達成することができました。

いままで、指導、支援していただいた方々に心より御礼申し上げます。

今一番嬉しい事は自分の「子」や「孫」に「爺」の自慢話の「種」が又一つ増えたことです。ありがとうございました。

工芸

「天に伸びよう」

山田敬子さん(早田)

このたびは、栄えある市展賞をいただき、身に余ることと感謝しております。

市展スタッフの方から「入賞されました。」と連絡があり、「まさか自分が？」と聞き間違いではないのかと信じられない思いでした。

公民館の切り絵教室で習い始めて六年になります。月二回の教室



出品作品の審査風景 (10月28日)

新潟日報美術振興賞

【日本画】 「冬の青海神社」

安中美千枝 (下興屋向)

【洋画】 「水響」 皆川孝一 (第1区)

【工芸】 「XII-III」 石澤啓一 (上下条)

【書道】 「良寛の歌」 佐藤芳春 (寿町)

【写真】 「神事の種まき」 助川 茂 (五番町)

は和気あいあいと楽しみながらやっています。今年は市展に出品することを目標にとり組んできましたが、今回のような大きな作品作りは初めてのことだったので、思った以上に大変でした。そんな中でご指導いただいた遠藤先生、教室の仲間のみなさん方の声援や後押しのおかげで出品することができました。本当にありがとうございます。

この賞を励みに、一層の努力を重ねてまいりたいと思います。

書道

「臨元永本古今集」

土田芳苑さん(岡ノ町)

加茂市展に出品を始めて今年で十年。私にとって節目となる年に市展賞を受賞できましたこと、喜びも二倍となり、大変嬉しく思います。受賞の連絡をいただいた際には、驚きを隠せませんでした。幼少の頃よりご指導をいただいている勝又楓苑先生、日頃より支えて下さっている皆さんに深く感謝いたします。

今回の作品では、料紙の選択に悩み、母にアドバイスをもらいな



がら、季節に合う落ち着いた色合いに仕上げることが出来ました。いつも協力してくれる家族にも感謝しています。

良き師、良き環境に恵まれ、大好きな書が続けてこられたこととても幸せに感じています。

今後も書と向き合う時間を楽しみながら、より一層作品制作に励みたいと思います。

写真

「鎮守様の夏祭り」

小柳政一さん(下高柳)

この作品については、ある日、ラジオ放送でこの祭りがある事を知りました。行って見たくなり、場所と開催日を調べ、二年目で行く事が出来ました。少し遠い所なので、船と車を使い何度か聞きながら、ようやく目的地に到着できました。

山と田んぼの集落のはずれの神社で、後ろに大きな滝があり、そこで神輿の滝浴びが始まるのととでした。午後一時三十分、涼気漂う名滝「白滝」の激しく降りそそぐ水しぶきの中で、男衆は五穀豊穰、海上安全、家内安全、商売繁盛などを祈願して、強く激しく、勇壮に力の限り、神輿を突き上げ動かす迫力を写すのにシャッターを切りました。その一コマです。

奨励賞・振興賞の皆さん

奨励賞

【日本画】「青海神社 翁杉」中名林 實 (矢立)

【洋画】「粟ヶ岳に霞」小林喜美子 (田上町)
「或る日のキッチン」坪谷イネ (秋房)

【彫刻】「なかま」川口清次 (田上町)

【工芸】「天空の舞」斎藤勝吉 (矢立)
「初秋彩」冨樫久子 (高須町2)
「亀甲象嵌にやぶれ麻ノ葉」近藤春男 (赤谷)

【書道】「道元の歌」笹川希代子 (青海町1)
「国木田独歩『武蔵野』より」

川島松一 (大郷町2)

「五言古詩」鈴木恵美 (早田)

「七言律詩」田辺美保子 (番田)

【写真】「小雪とパパ」樋口八重子 (五番町)
「じゅな・だーいすき！」小柳典子 (八幡3)
「ママこわいよー」新井勝義 (都ヶ丘)
「爽やかな夏」乙川知昭 (黒水中)

振興賞

【洋画】「夢～遊泳～」渡辺千晴 (加茂高)

【工芸】「神話」涌井 凌 (加茂農林高)

【書道】「臨争坐位文稿」小嶋ゆかり (新津南高)

歯を大切に スポーツを楽しく②

転ばぬ先の歯の健康

歯とお口が健康な人ほど活動的で、転びにくく、寝たきりにもなりにくいことがわかってきています。さらに、一生涯スポーツを楽しむために、歯の健康が重要なカギとなります。

☆よく噛める人ほど、よく動ける
健康で長生きするためには、歯とお口の健康がとても大切です。これは、食べ物から栄養を吸収するために歯が不可欠である、ということだけではありません。
よく噛める人は、生活するうえで必要な「起き上がる」「歩く」などの動作がスムーズなのです。また、8020の達成者は、自由に外出できる人が多いこともわかっています。よく噛める人は、生

活活動の能力（ADL）も高いため、行動範囲も広がるのです。

☆寝たきり予防にも歯が大切

高齢者の転倒は寝たきりになる大きな原因です。歯がないとバランスがとりにくくなり、転びやすくなるといわれています。逆に歯がない人でも義歯（入れ歯）を入れることで転びにくくなるともいわれています。これは、歯がきちんと噛み合うことで、あごの位置が安定し、体のバランスがよくなるためと考えられます。

つまり、転倒を防いで、寝たきを予防するためにも歯とお口の健康が重要です。

☆スポーツを十分に楽しむためにも

歯とお口の健康は高齢者がスポーツを楽しむためにも重要といえます。運動習慣のある人のほうが残っている歯が多いという傾向があり、高齢になるほど運動習慣と歯との関係が深くなっていることが示されています。

一生涯スポーツと親しんで過ごすためにも、きちんと噛めることが大切なのです。



（加茂市歯科医師会）

総体結果



駅伝競走

期 日 十一月三日

会 場 陸上競技場周辺周回コース

ス

【3区間6.6kmコース】

▼中学生女子の部①田上中学校A

25分29秒大会新②加茂中学校A

③若宮中学校

【5区間11kmコース】

▼小学生男子の部①加茂陸48分3

秒②加茂レッドファイヤー③マリ



ラ▼小学生女子の部①run!run!

un! 52分58秒▼中学生男子の部

①田上中学校39分18秒②七谷中学

校・田上中学校合同チーム③加茂

中学校A▼一般高校男子の部①F

unRunnersB 45分34秒②

加茂スキークラブ③FunRun

nersB



バレーボール

期 日 十一月十日

会 場 勤労者体育センター

【中学生女子の部】

一位 葵中学校

二位 田上中学校

三位 七谷中学校



バスケットボール

期 日 十一月二十五日

会 場 勤労者体育センター・加茂中学校体育館

【中学生男子の部】①葵中学校B

チーム②加茂中学校A

【一般高校男子の部】①GOLD

②F.D.KAMO③紅BOY、

DINKERS

DINKERS

鬼倉遺跡出土の墨書土器 ほくしよ

鬼倉遺跡からは、九世紀前半の須恵器を中心とする土器が河川跡などから多く出土している。その中で、主に土器の底部の外面に文字や記号が墨書やヘラ書きされたものが約百二十点ある。一遺跡から出土する点数としては大変多く、遺跡の性格に関係する遺物として注目される。平成十九年に加茂市指定文化財となっている。

墨書土器の用途や性格については、祭祀（さいし）に関係したものと見る見解が有力な考え方のひとつである。それを検証するには

文字の意味も大事であるが、土器の出土状況を把握することが大切である。鬼倉遺跡の墨書土器は全体の約四割が河川跡から出土し、近くからは、箸状木製品や銭貨など祭祀に関係するとされる遺物が出土している。墨書土器も同じ用途で使われた可能性が高い。

文字の内容を見ると、人名や氏族名と見られる「古安人」、「是人」、「秦女」、「建部」のほかに、吉祥句と考えられる「千」、「干」、「大」、数字の「二」、「三」、「十」など一文字のもの

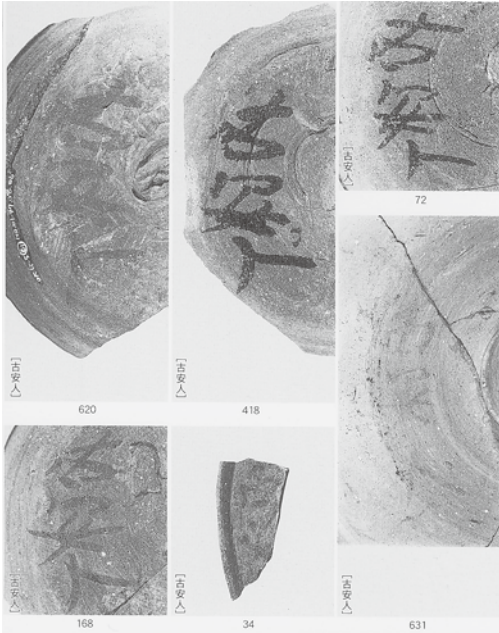
が多い。この他にも「二岐」、「人」、「床」、「犬」、「浦」、「月」、「伊」、「申」、「上」などがある。

この中で、一番点数が多い文字は「干」で、「千」の異体字と見られ「千」とあわせると二十六点出土した。「千」は県内の多くの遺跡から出土している。次いで多い文字が「古安人」で合計八点出土している。字形もひとつではなく、複数の書き手によると見られる。これまでのところ、同じ墨書は県内の遺跡では知られていない。「是人」は加茂市馬越遺跡からも出土しているが、他に長岡市（旧和島村）の八幡林遺跡から出土した木簡にも見られる。

古代の文献資料が少ない中で、遺跡から出土する文字資料は大変貴重である。中でも墨書土器は多くの遺跡から出土し、その遺跡の性格を決定する重要な情報をもたらすことがある。それゆえに、墨書土器と接するときは、慎重になると同時に浮かび上がる文字に目を奪われる。墨書土器には古代地域社会を雄弁に語る秘めた魅力がある。

(伊藤秀和)

加茂の風土記



鬼倉遺跡出土墨書土器「古安人」

あいちとっ

社会福祉費寄付金

▼室井義範さん（栄町）から
一万七千五百三十二円

母子健康センターへ

▼吉野黒板製作所から

ホワイトボード一台

加茂市へ

▼星義弘さん（五番町）から
お茶会用物品一式

人口のうごき

11月1日現在
世帯 10,251 (-13)
人口 30,075 (-48)
男 14,503 (-20)
女 15,572 (-28)
()内は前月比
(10月異動分)
出生 8 (男6女2)
死亡 43 (男22女21)
転出 49 転入 36